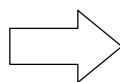


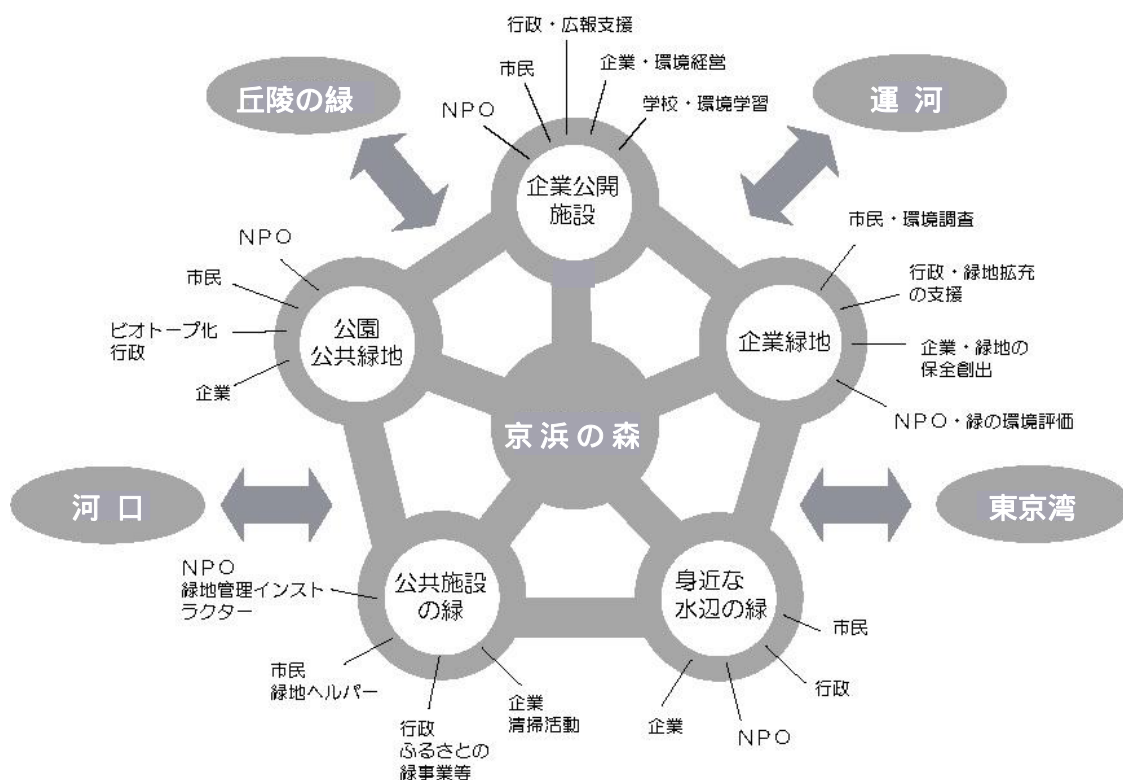
# 「京浜の森づくり末広地区緑化計画」

新たな産業拠点としての良好な  
地区イメージの創出のために  
企業・行政の協働による緑の  
確保とつながりの形成のために  
緑地を資産としてとらえた  
環境行動のアピールのために



全体目標

「未来に引き継ぐ京浜の森づくり」  
を進めます



「京浜の森」の構成

## 京浜の森づくりの展開

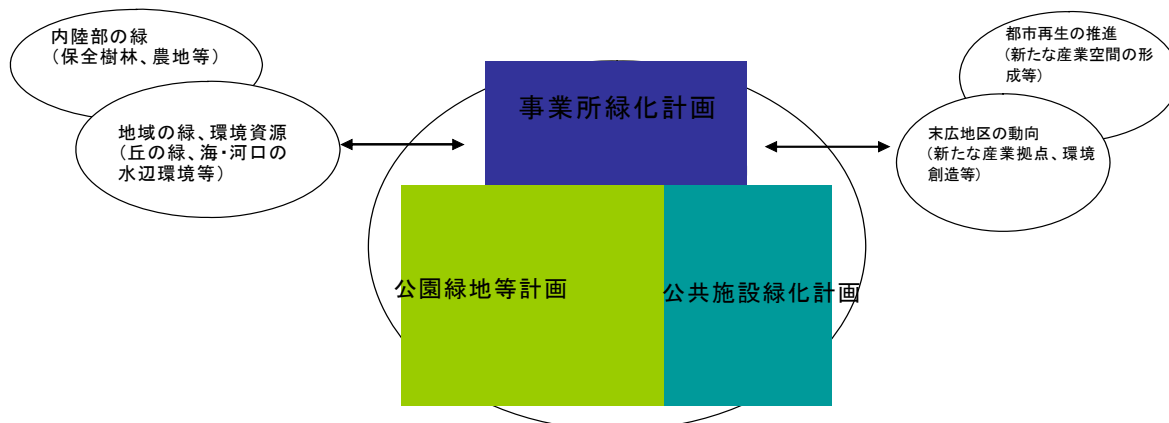
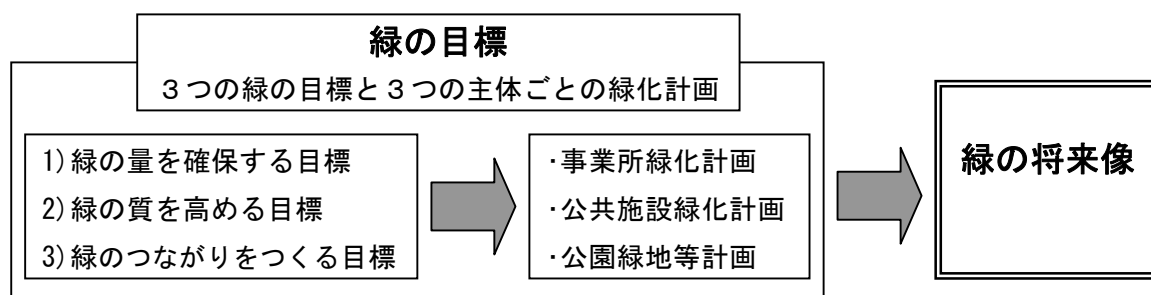
- ・ 企業の緑地や公開施設と公共の緑を、地域の環境財産「京浜の森」として拡充・活用していきます。
- ・ 京浜の森づくりにより、臨海部の水際と丘陵の緑とのつながりを回復します。
- ・ 多様な緑化活動に対して、さまざまな主体が協働して、京浜の森をつくり、育てていきます。
- ・ この「京浜の森づくり」の先導地区として、末広地区での展開に取り組みます。

# 1 末広地区の緑の目標

豊かな環境の産業拠点としての末広地区のイメージ向上に向け、地域の緑や海に開かれた水際空間などの魅力を活かして、地区の緑の量や質を確保し、それぞれの緑を相互につないで、うるおいのある地域環境の創造をめざします。

公・民が共有する地区の緑化計画に基づき、緑の核となる公園、公共施設などの緑化を進めるとともに、企業緑地の保全・創出とあわせて、地域環境や防災等に配慮した緑の公共・公益的空間を確保し、地区の緑の将来像の実現をめざします。

また、公共の緑や企業緑地の拡充・活用を企業・市民・行政の協働により展開し、多様な環境行動のネットワークづくりをめざします。



## 1) 緑の量を確保する目標

京浜臨海部の都市再生を先導する新たな産業拠点にふさわしい地区イメージを創出するため、公共と民間事業所の協働により、末広地区の緑化対象地面積の20%の緑の確保をめざします。

	対象地		緑の目標値	目標量	備考(現在)
民間	工場等事業所敷地	約 171 ha	敷地面積の 15%以上	約 25 ha	13.8 ha
公共	公共施設敷地 (水再生センター等)	約 53 ha	敷地面積の 20%以上	約 11 ha	7.8 ha
	公園、港湾緑地他 (道路、荷揚場等除く)	約 11 ha	—	約 11 ha	5.9 ha
合計		約 235 ha		約 47 ha	27.9 ha

## 2) 緑の質を高める目標

緑の多様な効用を活かして、新たな産業拠点や横浜サイエンスフロンティアにふさわしく、まちの魅力や海、緑を活かした就業環境づくりをめざします。

J R 鶴見線沿いの事業所や北部第二水再生センターなどの環境保全林を健全で持続性のある緑として育て、緑の効用を高めるとともに、地区の自然環境復元をめざします。

緑豊かな末広地区をつくるため、地区にふさわしい樹種や花木による緑化と適正な手入れ、緑地の改善を行っていきます。

また、市民・企業・行政の協働による緑化活動が地区の環境行動として継続されるよう、多様な活動を展開していきます。

目 標	内 容
1. 新たな産業拠点としてのイメージを創出するため、緑豊かな景観向上を進めます。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・海に広がる地域の特性を活かして、緑あふれる街並みを形成し、就業者や来訪者にうるおいをあたえる緑の環境づくりをめざします。</li> <li>・末広町プロムナードやJ R 鶴見線沿いに地区の緑の骨格としてのゆとりある緑化空間を確保していきます。</li> </ul>
2. 地域の資源を活用して、市民に身近な水際空間の緑を確保していきます。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・つばさ橋が見える先端部の緑化などにより、市民が利用できる眺望の良い水際空間の緑のつながりをつくります。</li> <li>・海芝公園など、市民が海を身近に感じられる新たな緑のオープンスペースを確保します。</li> </ul>
3. 次世代に引き継げる持続性の高い緑をめざします。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「ふるさとの緑」として親しまれている樹種を中心にした緑化を進め、持続性の高い樹林地を育てます。</li> <li>・埋め立て地でも、健全に緑が生育できるよう土壌条件等を整え、緑地を保全していきます。</li> </ul>
4. 緑化条件の改善を図り、健全な緑地づくりを進めます。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・植栽地の拡大、植栽基盤、空間条件の改善を行います。</li> <li>・のびのび、しっかりとした自然な樹形、ゆったりとした空間を確保していきます。</li> <li>・高木、中木、低木、草花、地被植物、芝等を効果的に組み合わせ、林内空間を確保します。</li> </ul>
5. 自然環境復元の可能性を広げていきます。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の自然植生を強調する樹木等を適切適所に選択していきます。</li> <li>・場所に応じて生物多様性や自然の営みに任せて自立した系（生態系）に配慮した緑地やビオトープをつくります。</li> </ul>
6. 企業・市民・行政の協働により緑をつくり育てる活動を進めます。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・協働による環境活動、地域貢献活動の場として活用を進めます。</li> <li>・緑地管理技術講習などの場として、緑地の活用を進めます。</li> <li>・緑地の保全・活用を進める緑の担い手（ヘルパー）の育成を進めます。</li> </ul>

### 3) 緑のつながりをつくる目標

入船公園や北部第二水再生センター、港湾緑地などのまとまりのある公共の緑と企業緑地の多様な緑の目的・機能のつながりを強めて、地区内に緑の空間のつながりとそこでの環境活動をつなぐ、緑のネットワークの形成をめざします。

地区の緑地の目的・機能を概ね6つに設定し、それぞれの効用が複合して発揮されるよう、企業緑地と公共の緑を、適切に配置し、管理・活用していきます。

目的・機能	緑地の活用イメージ例	緑化(活動)の例	配置のイメージ例
①修景型	通勤者や来訪者など、見る人に安らぎをもたらす、心を和ませる緑地です。	緑陰、市民の木、区の木等や季節感のある花木など	歩行者動線、街庭、前庭、接道部植栽帯等
②活用例	企業の環境経営や市民の環境教育の場として活用される緑地です。	緑化講習、炭焼き等資源活用、記念植樹等	企業の中庭、休憩空間、生垣、花壇等
③生物多様型	豊かな植生と多くの生物種が生活できる緑地です。	ビオトープ、とんぼ池、草地、土壤保全、生物調査等	人が立ち入らない場所、修景池、工業用水池周辺等
④防災型	延焼防止や避難などに備える緑地です。	ボリュームのある緑、延焼防止効果の高い樹種等	緑の骨格、沿道・隣地界沿植栽帯、まとまりのある空間等
⑤環境保全型	二酸化炭素の固定やヒートアイランド現象緩和をアピールする緑地です。	自然植生樹種による環境保全林、ふるさとの緑、緑の循環緑地等	規模の大きな緑地、沿道・沿岸の樹林帯等
⑥レクリエーション型	市民、就業者のレクリエーションの場として利用されている緑地です。	野球場、芝生広場、企業公開施設、港湾緑地、公園等	見晴らしの良い場所、水際の緑地等

## 2 末広地区の緑の将来像

まとまりのある公共の緑と企業緑地を結びつけたボリュームのある緑の骨格とネットワークを形成し、これにつながるそれぞれの緑の拡充を進めます。

海・鶴見川を身近に感じられる水際空間や企業公開施設などの地区の魅力資源の活用を進め、公共の緑や企業緑地での市民ボランティアなどの協働緑化活動を展開します。 < 下図：緑の将来像参照 >



**企業緑地**

立地企業とその周辺環境の向上に資するため、積極的に緑の効用を活用して、事業所緑化の推進を図ります。



**公園・公共緑地**

地区の緑の拠点づくりをめざして、まとまりのある公共の緑を確保していきます。



**緑の骨格とネットワーク**

まとまりのある緑地と小規模な緑地をつなぎ、ボリュームのある緑のつながりを形成します。



**企業公開施設**

市民利用が可能な緑地を広げるとともに、環境学習や緑地の手入れを行うボランティア活動の場としての活用を進めます。



**公共施設の緑**

街庭・街路樹とあわせて、沿道と水際の緑化を進めます。



**身近な水辺の緑**

地域の資源を活用して、市民に身近な水際空間の緑を確保していきます。



京浜の森づくり末広地区協働緑化計画

**緑の将来像**

凡 例

- 緑の骨格
- 身近な水辺の緑
- 街路樹
- 15%以上
- 20%以上
- 既存企業緑地
- 企業公開施設
- 既存公園・緑地
- 既存公共施設の緑





京浜の森ロゴマーク

## 京浜の森づくり末広地区協働緑化宣言

～ 末広地区の新たな風景づくりをめざして ～

緑には かけがえのない自然環境を保全・創造する大切な役割があります 様々な効用を持つ緑を将来に向けてつくり育てていくことが望まれています

京浜地区は埋立地という特性から古くからの樹林地がありませんそこで 地区にふさわしい環境創造を進め良好な地区イメージをつくり出すためには 企業緑地や公共緑地の新たな確保とともにこれらと市民に身近な水辺の緑や企業公開施設などの地区の魅力資源を 企業・市民・行政が協働して有機的につなげる取組が必要と考えます

私たち 末広地区に所在する事業所と横浜市は海に広がる地区に良質な緑の環境をつくり出し 次世代に継承する共有財産とするため全体目標「未来に引継ぐ京浜の森づくり」を具体的に実践し環境行動をアピールしていきます

ここに私たちが協働で進める緑化の指針として「京浜の森づくり末広地区緑化計画」を策定し 地区の「緑の目標」と「緑の将来像」を共有して それぞれの立場からの緑の拡充を進めるため「京浜の森づくり」に参加し協働していくことを宣言します

平成17年12月1日

旭硝子株式会社京浜工場  
工場長

JFEエンジニアリング株式会社鶴見事業所  
常務執行役員鶴見事業所長

末広ファクトリーパーク協議会  
会長

株式会社ダスキン横浜中央工場  
工場長

鶴見曹達株式会社  
代表取締役社長

東京ガス株式会社環境エネルギー館  
館長

東京ガス株式会社横浜管理事務所  
所長

株式会社東芝京浜事業所  
所長

矢代工業株式会社  
代表取締役社長

ユニバーサル造船株式会社京浜事業所  
執行役員京浜事業所長

横浜市長

大江 正人

殿岡 茂樹

尾和瀬 穰二

松下 重雄

久保山 純

長谷川 宏

保坂 茂樹

服部 靖弘

中村 文栄

清水 亮一

中田 安